



安浦ブランドで地域の活性化!!

休耕地増加にストップ!!

女子畑自治会長の松田和幸さん(64才)は、他団体や大学生ボランティアの支援を受け、女子畑ブランド米創出プロジェクト実行委員会を立ち上げ、活躍中です。プロジェクトは東日本大震災後、福島から移住された方から安心・安全な食料生産の相談を受け、休耕地の世話を始めた事がきっかけになりました。



女子畑ブランド米に協力する地域のお年寄り



大学生ボランティアの草取り

田植え中の松田会長

現在、約5反3畝(0.53ha)の水田で化学肥料や農薬を使わず、有機肥料で育てたブランド「女子米(おなごまい)」は人気が出て来て完売状態です。

増え続ける休耕地で特徴のある農作物を作り、地域を活性化させ若い人達が増え、子供たちのはしゃぎ声が聞こえる地域作りを目標にしています。自治会長としての活動もあり、体が幾つあっても足りない笑顔で話す松田さんでした。



街の看板屋さん

鉄アートで注目!!

三津口で看板店(有)山広美工を営む山広孝司さん(64才)が、鉄工芸でも注目を浴びています。その一つがボルトや鉄筋を使った「細工物」。友人が持ち込んだ廃棄用ボルトを、山広さんは動物や楽器を演奏する人に変身させました。

現在、本業以上に力を入れているのが「鉄アート」。鉄を叩(たた)いて作る鍛鉄(たんてつ)の門扉制作の経験をもとに、芸術性豊かな燭台や花台ができました。

山広さんは、「人に見てもらい楽しんで頂く為に作っている」と言われます。作品は、隣接する「工房 孝鉄」で手にすることが出来ますので気軽に立ち寄って下さい。忙しい毎日の中、時間をつくり奥さんとのドライブが楽しみで、豊かな自然や各地の祭り求め、日本中を走り廻っておられます。

人を楽しませるのが好きな山広さん、今度はどんなアイデアで私達を楽しませてくれるのでしょうか。



まちづくり活動

安浦と高砂の市民交流!!

コンクリート船が繋ぐ70年の歴史と絆!!



武智丸の見学

梅雨真っ只中の6月17日、兵庫県高砂市老人クラブ連合会の有志42名が、三津口湾にあるコンクリート船武智丸を訪れ、安浦町まちづくり協議会と昨年来の旧交を深めました。武智丸は大戦末期に鉄不足の為、高砂市で作られた軍用の貨物船で、終戦後、安浦漁協が防波堤にと国から2隻の払い下げを受け1949年に完成。生まれ故郷の造船所は今も無く、跡地はマリナーとなりましたが、船は建造後70年を経て今も海の守り神として活躍中です。当日は、武智丸の内部や海上から見学した後、野呂高原ロッジで交流会となりました。参加者の中には、進水式を見た人もおり、「コンクリートの劣化はほとんど見られず技術遺産」「今も役目を果たしている姿は町の誇り」との声も聞かれ、楽しい一時を過ごしました。

交流会後の記念撮影



高砂市の皆さんと皿回し



ひまわり会の銭太鼓による歓迎



交流会後の記念撮影



新ええとこ祭り

ひとつになろう安浦
みんなで作ろう
新しい「まつり」

ええとこ祭りが生まれかわります。

皆さんに長い間親しまれてきた「安浦ええとこ祭り」が、今年、リニューアルします。会場をまちづくりセンターに移し、11月15日の1日開催。

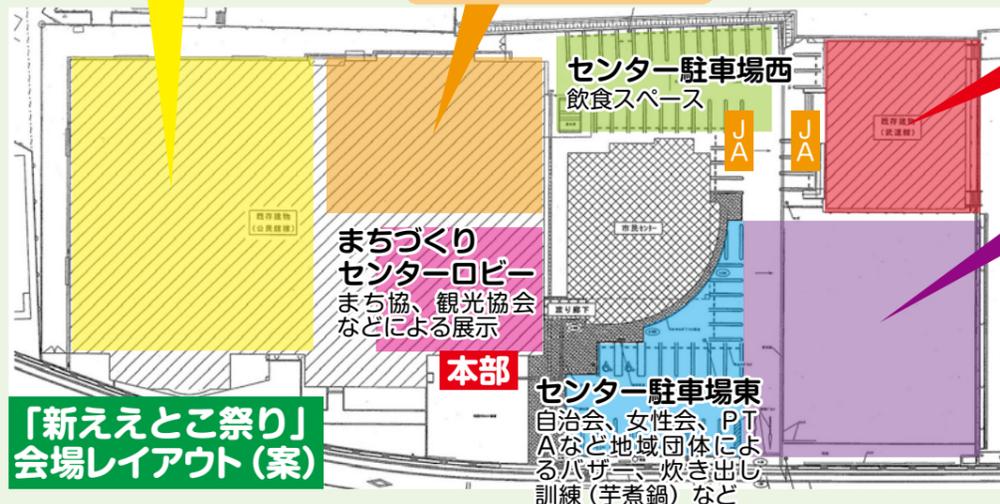
従来の地域活性化や健康づくりに加え、防災などをテーマに色々な団体が各コーナーを担当。目指すのは、地域に住む人たちが自ら企画・運営し、すすんで参加する、より手作り感のある「祭り」です。

安浦がひとつになり、いつまでも安心して暮らせる町に...そんな願いを込めて実施します。町民の皆さんのご支援とご協力が必要です、積極的に参加しましょう。

駐車場は安浦中学校グラウンドと商工会西広場

かもめアリーナ(シート)
保健出張所、公衛協、民児協、ライオンズクラブ、くれんどなどによる、健康と安全のイベント、キッズコーナーあり
(フロア)
体協による競技体験、消防はしご隊演技、誰でも参加できる防災体験

きらめきホール
文連などによる舞台発表、旧加計町神楽団



武道館
農業委員会などにより農産物出品
商工会の展示・物販

バスケットコート
商工会による飲食、物販
ミニステージでのイベント

開催日
平成27年11月15日(日)
9時~15時30分
会場
安浦まちづくりセンターとその周辺

「新ええとこ祭り」会場レイアウト(案)

おでかけ情報

9月	きらめき音楽館	9/12(土) 11:00~	きらめきホール	11月	安浦町文化祭	10/31・11/1(土・日)	安浦まちづくりセンター
	いなし安浦青空市	9/19(土) 8:00~	いなしふれあい広場		あそび場(くれんど)	11/7(土) 13:30~	ポラーノ広場
	呉が創ったアート展	9/19・20(土・日)	野呂山キャンプ場周辺		安浦新ええとこ祭り	11/15(日) 9:00~	安浦まちづくりセンター
	神山神社大祭・權伝馬	9/26・27(土・日)	神山神社ほか		いなし秋穫祭	11/22(日) 9:00~	いなしふれあい広場
10月	佐野有美 文化講演会	10/4(日) 14:00~	きらめきホール	安浦友愛大学祭	11/27(金)~12/2(水)	安浦まちづくりセンター	
	亀山神社秋季例大祭	10/10・11(土・日)	亀山八幡神社	やすうら月の西行祭	11/28(土) 11:00~	グリーンピアせとうち	
	きらめき音楽館	10/17(土) 11:00~	きらめきホール	青少年ふれあいコンサート	11/29(日)	きらめきホール	
	いなし安浦青空市	10/17(土)	安浦郵便局前坂本商店駐車場				
	勘定神社秋祭り	10/17・18(土・日)	安登勘定神社境内				
	弘法寺柴燈護摩供火渡り	10/18(日)	野呂山弘法寺境内				
	くれんどハロウィンパーティー	10/31(土) 11:00~	くれんど				
映画鑑賞会「四十九日のレシビ」	10/31(土) 13:30~	きらめきホール					

市有形文化財

いおんじょう
野呂山伊音城
八十八ヶ所を巡ろう!!



阿弥陀堂札所



毘沙門岩札所



中切村奉納石碑

中切三本松公園を基点に弘法寺への参道沿いに「野呂山伊音城八十八ヶ所」が設けてあります。今回は、各札所を巡りながら弘法寺へお参りしましょう。

札所は岩場六ヶ所・お堂三ヶ所の九ヶ所あります。一ヶ所に十体の大師像（阿弥陀堂札所は八体）が祀られています。更に各札所にはもう一体の尊像があり、本尊不明（三本松札所）、観世音菩薩（岩地藏札所）、不動明王（不動岩札所）、地藏菩薩（夫婦休み札所）、かん千音菩薩（かん千音岩札所）、毘沙門天（毘沙門岩札所）、釈迦如来（釈迦岩札所）、勢至菩薩（勢至岩札所）、阿弥陀如来（阿弥陀堂札所）と、各札所名の由来となっています。

一部ハゼの木を避けながら進むところがあり、長袖・長ズボンで出かけましょう。

三本松公園の一角には、明治32年3月5日に当時の中切村が奉納した石碑があります。当時の苦勞を偲びながら、歩き始めましょう。

また、札所とは別に弘法寺から中切に向って、距離の目安となる里程地藏（約110m間隔で1～45番；一部欠番あり）も祀られています。登山の疲れを和らげながら八十八ヶ所を巡ってはいかががでしょう。

※三本松公園スタート；三本松札所（1～10番）-- 岩地藏札所（11～20番）-- 不動岩札所（21～30番）-- 夫婦休み札所（31～40番）-- かん千音岩札所（41～50番）
毘沙門岩札所（51～60番）-- 釈迦岩札所（61～70番）-- 勢至岩札所（71～80番）-- 弘法寺 -- 結願阿弥陀堂札所（81～88番）

※案内延長；約3.5km 約1.5時間

幻の滝 再発見!!

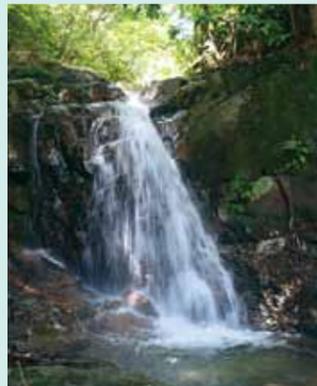
内平 たき もと
瀧ノ本の滝

安浦町史に載っている内平の滝『瀧ノ本の滝』。写されたのは11年前。その滝にはほとんど誰も行くことがなく、現在どうなっているか調査してきました。

内平の砂防ダムの手前から山に入り、途中長年の月日で草木が生い茂った道を切り開きながら歩くこと1時間、ようやくたどり着きました。落差約8mの本滝とその上流の落差約4mの小滝があり、山奥にひっそりとさせておくにはもったいない勇姿でした。

そしてもう一つの発見、道の途中で並走していた全長約2kmの井出（いで=用水路）。江戸時代に作られたといわれ、現在も原畑川から内平地区に水が引かれています。こんな山奥、大変な重労働だったに違いありません、先人のパワーには頭が下がる思いです。

内平地区は安浦の中でも米どころだそうで、あの滝の水が井出を通り内平の田んぼを潤し、美味しいお米を作っていると思うと感慨ひとしおでした。



瀧ノ本の滝 小滝



瀧ノ本の滝 本滝



原畑川と内平を結ぶ井出



藤原鉄工所

安浦町内海北2丁目1-9 ☎84-2064

創業明治33年!
鍛冶屋から鉄工所へ



明治時代の鑑札



鍛冶屋が茶道にあった頃



初代 藤原理一さん



二代目 一男さん



三代目 正照さん



四代目 浩和さん



コークス炉とスプリングハンマー



作業中の浩和さん

初代 藤原理一さんが営業鑑札を取得し、茶道で鍛冶屋を始められたのが明治33年。二代目一男さんが昭和46年屋号を「藤原鉄工所」とし現在地へ。三代目正照さん四代目浩和さん（52才）と115年の歴史が受け継がれています。

当初は、農具や大八車の車輪などを製作・修理していましたが、時代の移り変わりとともに変化し、現在はスロープや外装品など、企業などからの特注品を製作しております。

「今までやってこられたのは、みなさんに育ててもらったからだと思う。だから、お得意様の注文には精一杯応えたい」と言葉少なに語る浩和さん。年代物のコークス炉やスプリングハンマーを前に、「今でも『鉄を直してくれ』と頼まれることがある。残しておかんといけんのんよ」と、どこまでも発注者本位の姿勢を貫いておられます。どうやら、そのへんに長く続く秘訣がありそうです。

写真でみる今と昔

安浦アーカイブ 鉄道

呉線列車の変遷



1985（昭和60）年グリーンピア安浦開園。1987年7～8月に臨時列車が運行されました。
提供：呉市役所写真友会



28年経った今、新型車両が投入され、安浦駅北の風景も一変しました。

今回、フォトコンテストの企画に協賛して写真を提供していただきました。

「アイラブ呉線フォトコンテスト」9月30日まで作品募集中です。

安浦～安登間（赤仁田付近）



提供：三原市在住 岸本博司さん

1967（昭和42）年頃、安浦～安登間赤仁田付近を走る下り通勤列車。現在は国道バイパスも出来て風景は一変、住宅や工場が立て込んでいます。

